

⇒ 札幌市の森林皆伐により市民の財産が失っています。

# 白旗山都市環境林ニュース

2024年8月1日(木) NO.1 発行:札幌の自然を守る会代表 梶田清尚 HP:<https://midori.kei1.org>



## 白旗山都市環境林を問題にした経緯

**その** 秋元札幌市長は森林破壊の説明を  
こつこつ間伐を一気に皆伐とは

昨年暮れ、清田区の白旗山都市環境林に行くと、驚くような大規模な森林伐採の現状を見ることになりました。それはひどい状態でした。この惨状は見るに堪えられないと、早速、わたしたち札幌自然を守る会は12月14日、札幌市長並びに北大などの関係者が参加する有識者会議各委員に白旗山都市環境林を「市民利用の保健・文化機能等維持林に戻し皆伐事業の即刻中止」についての申し入れを行いました。

白旗山の森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど

お知ろせ 語る会の開催です。  
**白旗山都市環境林**  
**ここまでやるか森林伐採**

- 日時 8月31日(土)午後1時30分から
- 場所 札幌市資料館2階研修室／大通西13丁目
- 会費等はありません。参加は自由です。

◆いま白旗山都市環境林は「大量の木が切られています」その事実を昨年暮れに札幌自然を守る会は現地を確認しました。それはすごい状況です。この事実を放置



すれば札幌市民のみどりの財産が大きく損なわれることになり、後世に悔いを残すことになります。そこで急ぎですが、当会は皆さんと共に考える場を設け、共に語りしたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。

大いに寄与してきました。それから100年を数え、都市化も進み、カラマツも3代目になって、今後は都市近郊に相應しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことを目指していました。

それを受けた形でこれまで、この森林の取り扱い区分は「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ30年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹を育ててきました。

## その2

### 白旗山都市環境林の理念を無視 皆伐で札幌市長は森林をどうしたい

ところが、2023年3月27日策定の「札幌市森林整備計画」では、突如、大面積の20haまで皆

伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐がどんどん進められています。これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視したものです。変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏み

にじられました。とても信じられないことを札幌市長は実行したのです。札幌自然を守る会としては、一刻も早く以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきと申し入れを行ったところです。

札幌市長は、皆伐することでこの地で一体何をしたいのか、市長の説明がないなかでは皆目見当がつかみません。いずれにしてもこのような森林破壊は、市民のみどりの財産を毀損させことから強く反対していきます。

## 西山造林地から「白旗山都市環境林」に 「自然への入り口」野生動植物の保護・育成・復元はかる

白旗山(321.5m)の山名は、屯田兵が公有地測量のため測量旗をこの山頂に立てたことによります。約110年前から植林されてきた里山がこの山となったのです。周辺は広く支笏軽石火山灰の堆積によって構成されています。山頂は平らで広く、晴天であると北西から南にかけての美しい山々が見えます。

現在、皆伐問題となっている白旗山都市環境林は、札幌都心部から南東に約16kmのところにあります。当時、石狩国札幌区(現在の札幌市)は1909年、財源の不足を補うためこの地に造林計画を立て、施行されたばかりの北海道国有未開地処分法により土地の払下げを受けました。白旗山都市環境林の前身である、西山造林地の始まりであります。

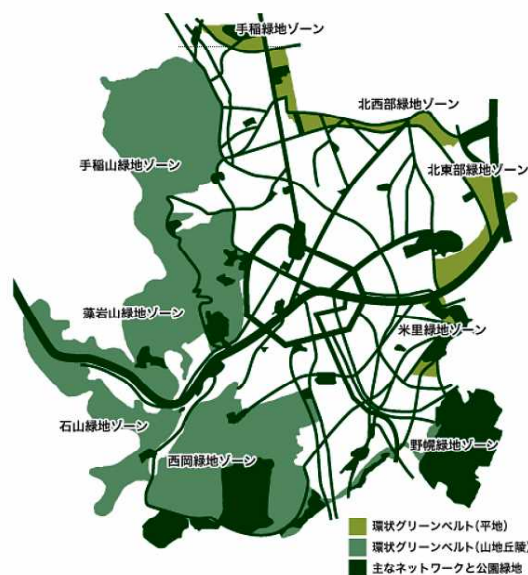
札幌市は1982年、全市的に「緑の基本計画」(※)を策定し、これ

に基づき適切な森林管理を行い森林機能を総合的に高めていく考えのもと、1984年に「白旗山都市環境林基本計画」を立案しました。計画は翌年から実施に移され、名称がこれまでの西山造林地から「白旗山都市環境林」に変更されたのです。

この森林は札幌市民の「自然への入り口」として、ふれあいの場、自然教育の場としての活用、また在来

の野生動植物の保護、育成、復元などが行われました。こうした展開は、都市近郊林の新しいモデルとして注目されました。

しかしその矢先、ユニバーシアード冬季大会のための距離スキー競技コース新設が持ち上がり、札幌市は開発に舵を切ったことで、現地などで反対運動が起こりましたが、1991年1月13日に白旗



山距離スキー競技場がオープンとなっています。

(※)グリーンベルト構想  
環状グリーンベルト構想(かんじょうグリーンベルトこうそう)は、札幌市が1982年(昭和57年)に制定した『札幌市緑の基本計画』において示された環状緑地構想に基づく都市計画である。

編集後記／今号は、白旗山の皆伐問題にかかわる経緯を掲載しましたが、次号からは札幌市のカーボンニュートラル宣言による森林の危うい実態を継続して掲載します。